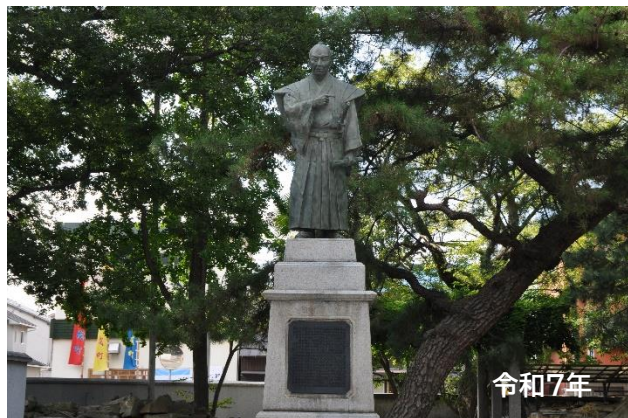


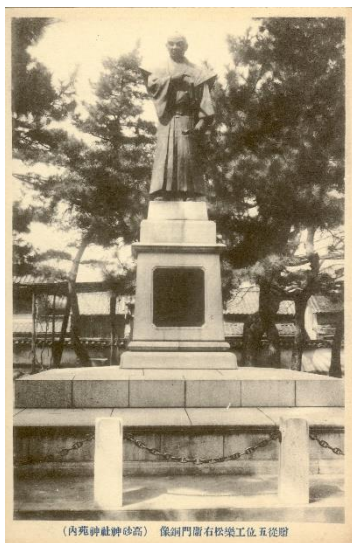
初代工楽松右衛門銅像



令和7年

高砂神社境内にある工楽松右衛門の銅像は、昭和41(1966)年に全国の帆布業者有志によって再建されたものである。もとの銅像は、大正4(1915)年11月に初代松右衛門が宮内省より従五位を贈られ、郷土の誇りに、と当時の加古郡長をはじめ町をあげて建てられた。

大正6(1917)年4月にお披露目されたが、太平洋戦争中の金属回収令により供出された。現銅像台座には昭和41(1966)年に造られた銘板と、大正5(1916)年10月付で橋本関雪の父親で儒学者の橋本海関撰による銘板が台座の前と後にはめ込まれている。



(内苑神社神砂高) 像頭門閣右松樂工位五從贈

昭和40年代

